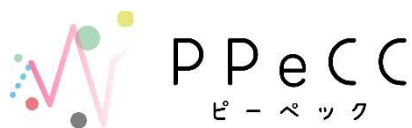


透析を受けている人の 就労と暮らし向きに関する調査報告書

221 名のこえから見えた、働くこと・暮らすことの現在地

2026 年 9 月

一般社団法人ピーペック



じんラボ

目次

目次.....	2
本調査の要旨	4
第 1 章 調査の背景と目的	5
1-1 なぜ「働くこと」と「暮らし」なのか	5
1-2 先行する実態調査	5
1-3 本調査の位置づけ	5
1-4 調査の目的	6
第 2 章 調査の方法	7
2-1 調査の概要	7
2-2 回答者の属性（Q1～Q6）	7
2-3 本調査の限界.....	8
第 3 章 透析治療が生活に占める位置.....	10
3-1 透析を受ける時間帯（Q7）	10
3-2 治療後、体調が回復するまでの時間（Q8）	10
3-3 治療後の体調（Q9）	11
3-4 治療にともなう時間的拘束	11
第 4 章 就労の実態	13
4-1 就労の状況（Q10）	13
4-2 働き方（Q11～Q14）	13
4-3 就労上の不利益（Q15）	15
第 5 章 暮らし向きと世帯の状況.....	16
5-1 世帯の年間収入（Q22）	16
5-2 暮らし向きの変化（Q16・Q17）	17
5-3 仕事以外の収入（Q18）	17
5-4 世帯構成（Q20・Q21）	18

第 6 章 就労状況と治療・生活の関連.....	19
6-1 就労状況と透析の時間帯.....	19
6-2 就労している人における働き方と透析の時間帯.....	20
6-3 暮らし向きと関連する要因.....	21
6-4 透析を受けていることに関する経験・気持ち.....	22
第 7 章 自由記述に見る当事者のこえ.....	24
第 8 章 考察.....	26
8-1 働き方と治療時間帯の関係.....	26
8-2 透析後の疲労について.....	27
8-3 経済的基盤と世帯の状況.....	27
8-4 示唆される支援の課題.....	28
8-5 本報告書の作成に関して.....	29
第 9 章 おわりに.....	30
資料編.....	31
資料 1 調査項目一覧.....	31
資料 2 全設問の集計結果.....	32
資料 3 引用文献・参考文献.....	42

本調査の要旨

透析を受けている人 221 名を対象に、就労と暮らし向きの実態を調査した。主な結果は次のとおりである。

- ・回答者の 60.6%が収入をともなう仕事をしており、80.8%が透析を理由とする就労上の不利益（退職・時短・昇進見送り等）を経験していた。
- ・年齢別の就業率は、30～50 代で全国水準※を下回った（50 代は本調査 70.5%／全国 83.9～87.0%）。
- ・世帯年収 400 万円以下が 53.8%を占めた。
- ・72.9%が障害年金を受給していた。
- ・この 5 年間で暮らし向きが「苦しくなった」と答えた人は 52.9%であった。
- ・就労している人では夕方以降（17 時以降開始）に透析を受けている割合が 46.8%であったのに対し、就労していない人では 2.4%であった。
- ・就労している人のなかでは、勤務時間が長い人ほど夕方以降の時間帯を利用する割合が高かった。
- ・30～50 代の有配偶率は全国水準を下回り、世帯の孤立リスクが示唆された。

※「全国水準」は、総務省統計局の労働力調査・国勢調査など一般人口の統計値を指す。出典の詳細は第 4 章・第 5 章を参照。

本調査は Web を用いた任意回答の調査であり、全国の透析患者を代表するものではない。特に就労世代の回答が多く含まれる点に留意が必要である（第 2 章参照）。

第1章 調査の背景と目的

1-1 なぜ「働くこと」と「暮らし」なのか

透析療法は、腎臓の機能が失われた人の生命を維持する治療として発展してきた。医療技術の進歩により、透析を受けながら長く生きることは可能になった。一方で、週3回・1回4～5時間という治療を生涯にわたって続けることは、その人の生活時間の大きな部分を占め続ける。

じんラボには、これまでも「働き続けられない」「収入が不安定で将来が不安だ」「職場に理解されない」といった“こえ”が寄せられてきた。生命予後が改善した現在、関心は「生きること」から「どのように生活するか」へと広がっている。しかし、透析を受けている人が実際にどのように働き、どのような暮らしを送っているのかは、必ずしも十分に可視化されてきたとは言えない。

また近年、社会保障制度をめぐる議論において、対象者の実態把握の重要性が指摘されている。当事者支援団体として、まず実態を明らかにすることが必要だと考えた。

1-2 先行する実態調査

透析患者の生活実態については、すでに長年にわたる調査の蓄積がある。公益社団法人日本透析医会と一般社団法人全国腎臓病協議会（全腎協）が共同で実施している「血液透析患者実態調査」は、1972年以降ほぼ5年間隔で実施され、直近では2021年度の調査報告書が発表されている。この調査は医療施設を通じて対象者を選定しており、全国の血液透析患者の実態を捉えた、他に類を見ない基礎資料である。

本調査は、これらの先行調査に代わるものではない。むしろ、その蓄積があつてこそ意味を持つ、補完的な位置づけの調査である。

1-3 本調査の位置づけ

一般社団法人ピーパックは「病気があっても大丈夫」と言える社会を創ることを目的と

する団体である。代表理事は透析歴 39 年を超える当事者であり、CKD・透析の情報プラットフォーム「じんラボ」を運営している。じんラボは Web を中心とした活動であるため、登録者の年齢層は全国の透析患者の分布と比べて相対的に若い。

この特性は、代表性という観点では制約となる一方、就労の実態を捉えるうえでは利点にもなる。全国の透析患者の平均年齢は約 70 歳であり、就労世代はその一部にとどまるが、本調査では 50 代以下が 60.6%を占め、現役世代の就労実態を相対的に多く捉えることができた。

表 1-1 先行調査と本調査の特性

	血液透析患者実態調査	本調査
実施主体	全腎協・日本透析医会	ピーベック
調査方法	医療施設を通じた配布	Web フォーム（任意回答）
代表性	高い	限定的
年齢構成	全国の分布に近い	相対的に若い（50 代以下が 60.6%）
実施頻度	約 5 年間隔（1972 年～計 10 回）	随時
強み	経年比較・代表性	機動的・就労世代の実態を厚く捉えられる

1-4 調査の目的

本調査の目的は、透析を受けている人の就労状況と暮らし向きの実態を明らかにし、支援のあり方を考えるための基礎資料を得ることである。

第2章 調査の方法

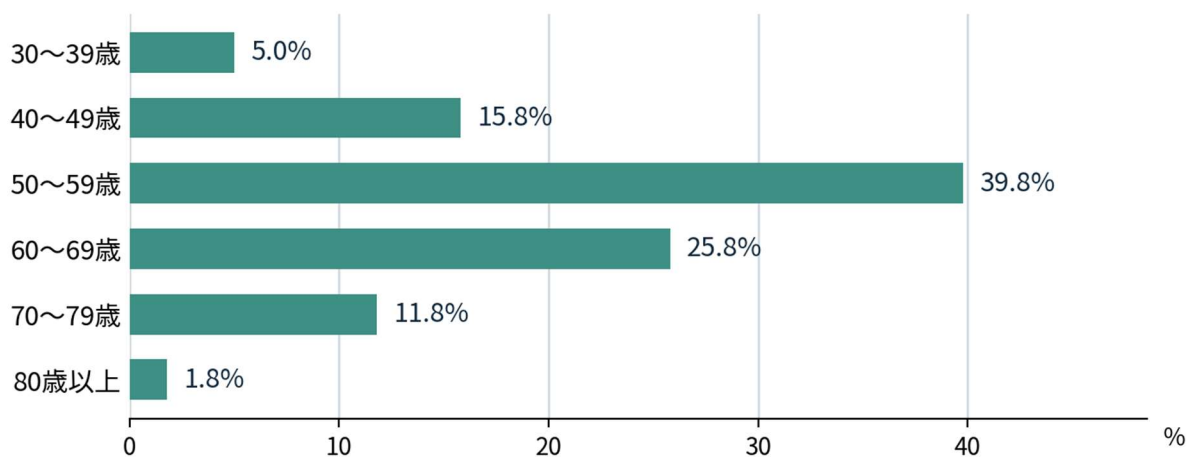
2-1 調査の概要

項目	内容
調査名	透析を受けている人の就労と暮らし向きに関するアンケート
実施主体	一般社団法人ピーベック
調査対象	人工透析を受けている方
調査方法	インターネット調査（Google フォーム）／任意回答
実施期間	2026 年 7 月 1 日～7 月 27 日
有効回答数	221 名（全国 41 都道府県）
設問数	全 22 問（属性・体調・就労・暮らし向き）
告知方法	じんラボ（登録者 5,385 名／2026 年 6 月現在）および SNS 等

2-2 回答者の属性（Q1～Q6）

回答者 221 名の属性は次のとおりである。性別は男性 65.2%、女性 33.5%、その他・答えたくない 1.4%であった。透析の種類は施設血液透析が 91.9%を占めた。

図 2-1 回答者の年齢構成（n=221）



年齢は50代が39.8%と最も多く、次いで60代25.8%、40代15.8%であった。日本透析医学会の統計によれば全国の透析患者の平均年齢は約70歳であり、本調査の回答者はそれと比べて若い層に偏っている。

表 2-2 主な原因疾患（n=221）

原因疾患	人数	割合
慢性糸球体腎炎	64	29.0%
糖尿病性腎症	40	18.1%
不明	27	12.2%
のう胞腎	19	8.6%
腎硬化症	15	6.8%
その他（自由記述を含む）	56	25.3%

「その他」には慢性腎盂腎炎、IgA 腎症、SLE、アルポート症候群などが含まれる。

2-3 本調査の限界

本調査の結果を解釈するにあたっては、以下の点に留意が必要である。

解釈上の留意点

1. 本調査は Web を通じた任意回答であり、全国の透析患者を無作為に抽出したものではない。関心の高い人、Web を利用する人が回答しやすい構造にある（自己選択バイアス）。
2. 回答者の年齢構成は全国の透析患者より若く、就労世代が多い。就労率などの数値をそのまま全国の水準として解釈することはできない。
3. 夕方以降（17 時以降）に透析を受けている人の割合が 29.1%と、全国（8.8%）より高い。就労中の人々が回答しやすかった可能性がある。
4. 横断調査であるため、変数間に関連が見られても因果の方向を特定することはできない。
5. 本報告書では統計的な検定は行わず、度数と割合を示したうえでその大小を記述している。

示された差は本調査の回答者における傾向であり、全国の透析患者に一般化できるものではない。

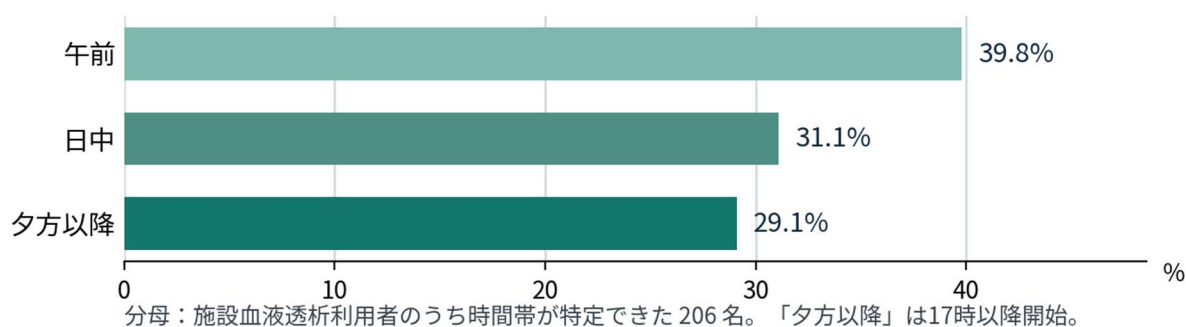
これらの制約はあるものの、就労世代の実態を一定の規模で捉えた調査として、意義があると考ええる。

第3章 透析治療が生活に占める位置

就労や暮らしの状況を検討する前提として、透析治療が生活時間にどのように関わっているかを確認する。本章の Q7～Q9（3-1～3-3）は、施設血液透析を受けている 207 名を対象とする。ただし Q7（3-1）については、自由記述の内容から時間帯を特定できなかった 1 名を除く 206 名を集計対象とした。

3-1 透析を受ける時間帯（Q7）

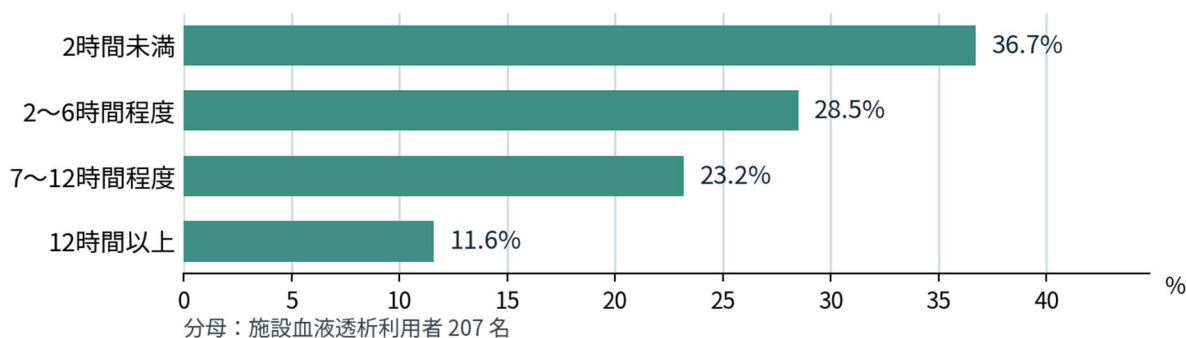
図 3-1 透析を受ける時間帯（n=206）



午前が 39.8% と最も多く、日中が 31.1%、夕方以降が 29.1% であった。選択肢以外の自由記述による回答は、記述内容から午前・日中・夕方以降に振り分けている。なお「夕方以降」は 17 時以降開始を指し、16 時台の開始は「日中」に含めた。

3-2 治療後、体調が回復するまでの時間（Q8）

図 3-2 透析後、普段の体調に戻るまでの時間（n=207）

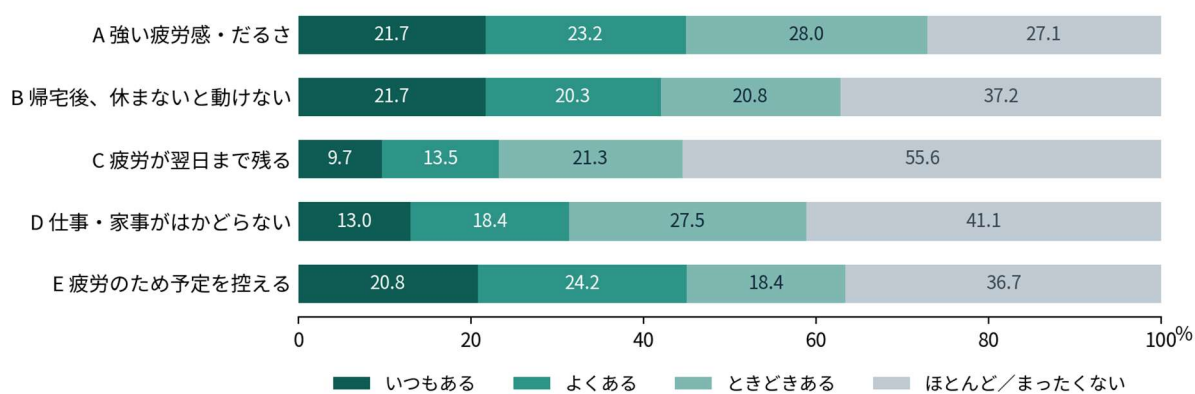


2 時間未満で回復する人が 36.7% である一方、7 時間以上を要する人が 34.8%（7～12

時間程度 23.2%+12 時間以上 11.6%) を占めた。治療当日の活動が制約される人が一定数存在する。

3-3 治療後の体調 (Q9)

図 3-3 透析後の体調 (n=207)



分母：施設血液透析利用者 207 名

「強い疲労感やだるさ」が「ときどきある」以上と答えた人は 72.9%、うち「よくある」「いつもある」は 44.9%であった。「疲労のため予定を入れないようにしている」も「ときどきある」以上は 63.3%（よく・いつもあるは 44.9%）にのぼる。治療後の疲労は、多くの人にとって一時的な出来事ではなく、生活の前提となっている。

3-4 治療にともなう時間的拘束

透析そのものは 1 回 4～5 時間であるが、実際には通院の往復、施設到着後の待機、終了後の止血などの時間が加わる。これらを含めると、1 回あたりおよそ 5～7 時間が治療のために費やされることになる。

治療にともなう時間の試算

1 回あたり：透析 4～5 時間 + 往復・待機・止血 約 1～2 時間 = 5～7 時間

週 3 回では：15～21 時間／週

年間では：52 週×3 回=156 日、780～1,100 時間

※ この試算は調査データではなく、一般的な治療実態に基づく参考値である。移動時間や待機時間に

は個人差があり、代表値ではない。

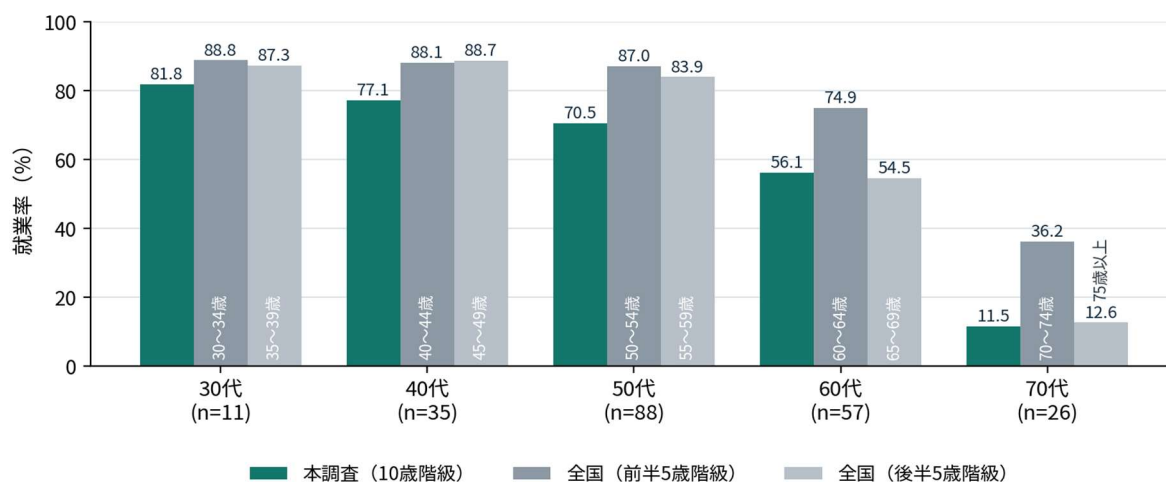
この時間は、急に変更することも、途中で切り上げることもできない。治療は「時間」という形で、生活を強く規定している。

第4章 就労の実態

4-1 就労の状況（Q10）

収入をとまなう仕事をしている人は60.6%（134名）、していない人は39.4%（87名）であった。

図4-1 年齢別の就業率と全国との比較



年齢別に見ると、単純な比較が困難な60代・70代を除き、30代から50代で全国の水準を下回っている。30代は本調査81.8%に対し全国は87.3～88.8%、40代は77.1%に対し88.1～88.7%であった。差が最も大きいのは50代で、本調査70.5%に対し全国は83.9～87.0%であり、13～17ポイント程度の開きがある。60代・70代については、全国の値が前半・後半の5歳階級で大きく異なるため、単純な比較には注意が必要である。

全国値は総務省「労働力調査 長期時系列データ 表番号 3-3 年齢階級（5歳階級）別就業者数及び就業率」の2025年平均による。本調査は10歳階級で集計しているため、各年代について全国の5歳階級2区分をそれぞれ示した。なお全国の70代については、70～74歳と75歳以上の2区分を示しており、本調査の「70代」（70～79歳）とは範囲が一致しない点に留意が必要である。

4-2 働き方（Q11～Q14）

就労している134名の内訳を見ると、正社員・常時雇用は50名（回答者全体の

22.6%、就労者の 37.3%) であった。勤務日数は週 5 日が 78 名（就労者の 58.2%）で最も多い。

表 4-1 就労している人の働き方（就労者 134 名）

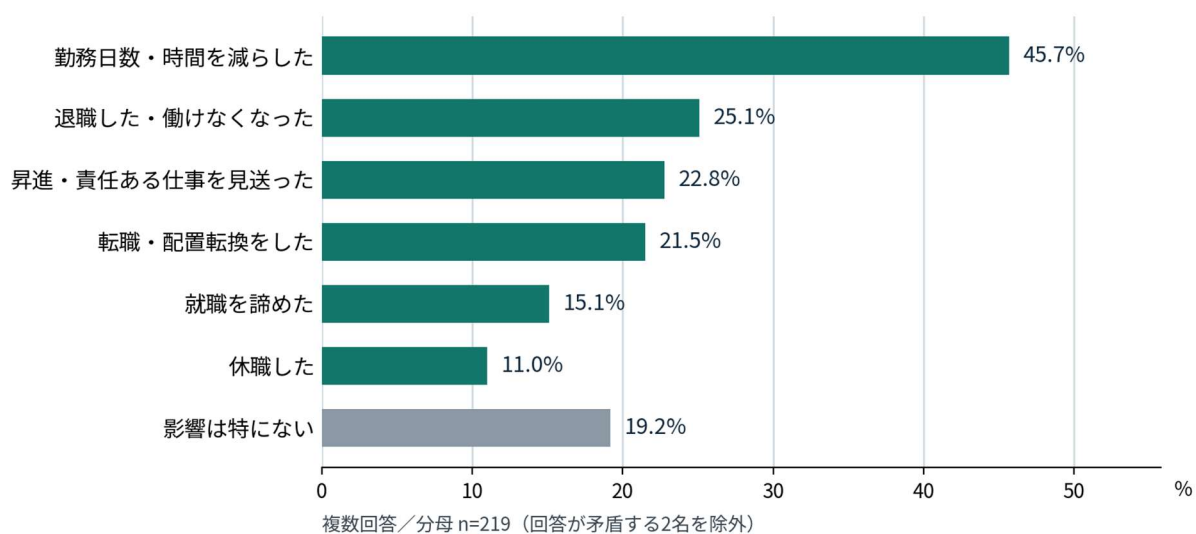
項目	区分	人数	就労者内
雇用形態	正社員・常時雇用	50	37.3%
	臨時雇用・パート・アルバイト	29	21.6%
	派遣・契約・嘱託社員	23	17.2%
	経営者・役員／自営業主（雇い人あり・なしを含む）	24	17.9%
勤務日数	週 5 日以上	94	70.1%
	週 4 日以下	32	23.9%
勤務時間	週 30 時間以上	89	66.4%
	週 30 時間未満	45	33.6%
職場への開示	概ね伝えている	101	75.4%
	一部の人にだけ／誰にも伝えていない	33	24.6%

※雇用形態は、就労者 134 名のうち主な 4 区分（126 名）を示した。内職など少数回答（8 名、資料 2 Q11 参照）は表中に含めていない。

※勤務日数は、「決まっていない」と回答した 8 名（資料 2 Q12 参照）は表中に含めていない。

4-3 就労上の不利益（Q15）

図 4-2 透析を続ける中で経験した就労上の変化（複数回答、n=221）



「勤務日数・勤務時間を減らした」が 45.7%と最も多く、「退職した、働けなくなった」25.1%、「昇進や責任ある仕事を見送った・見送られた」22.8%が続いた。

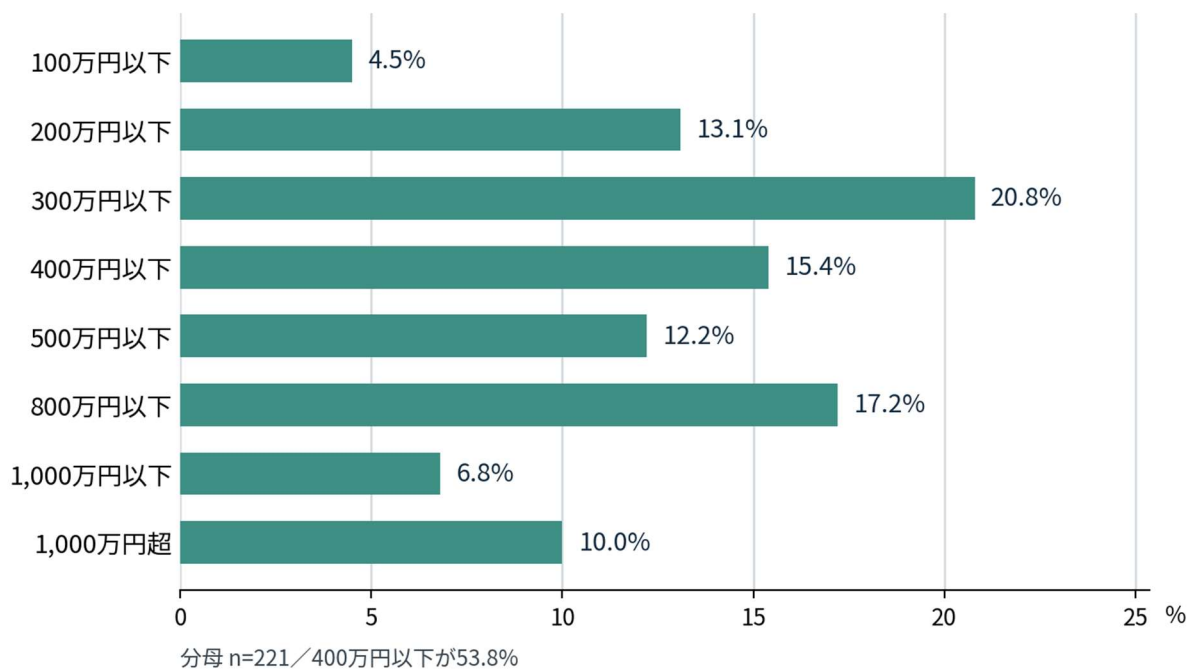
これらの選択肢を 1 つ以上選んだ人は 219 名中 177 名、80.8%であった。

※「透析による影響は特にない」と他の選択肢を同時に選んだ 2 名は、回答内容が矛盾するため分析対象から除外し、219 名を分母とした。「影響は特にない」と答えた人は 42 名（19.2%）である。

第5章 暮らし向きと世帯の状況

5-1 世帯の年間収入（Q22）

図 5-1 同居家族全体の年間収入総額（n=221）

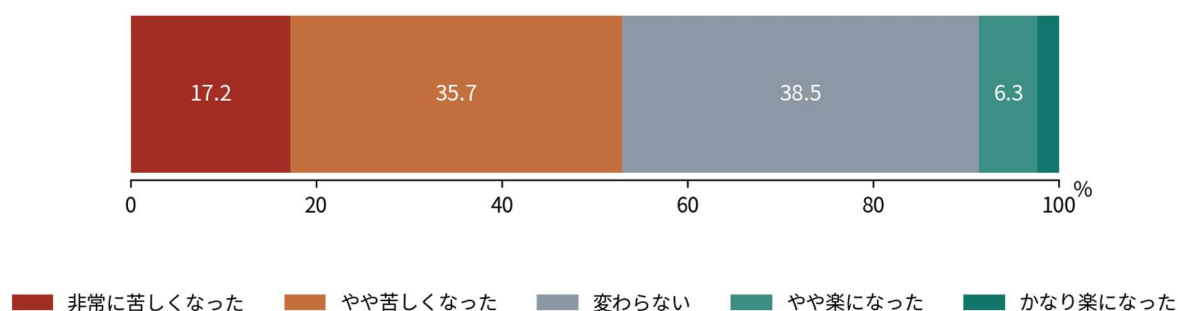


世帯年収 400 万円以下が 53.8%と過半数を占め、200 万円以下も 17.6%であった。中央値が含まれる階級は「300 万円超～400 万円以下」である（補間法による推定値 375 万円）。

※ 本設問は階級による回答であり、実額を尋ねた調査（国民生活基礎調査等）との単純比較はできない。また同居家族全体の収入であり、回答者本人の収入ではない。「～万円以下」は直前の階級を含まない区間（例：「200 万円以下」は 101 万円～200 万円の層）を示す。

5-2 暮らし向きの変化（Q16・Q17）

図 5-2 この5年間の暮らし向きの変化（n=221）



「非常に苦しくなった」17.2%と「やや苦しくなった」35.7%を合わせ、52.9%がこの5年間で暮らし向きが苦しくなったと答えた。現在の暮らし向きについても、48.9%が「苦しい」（非常に16.3%+やや32.6%）と回答している。

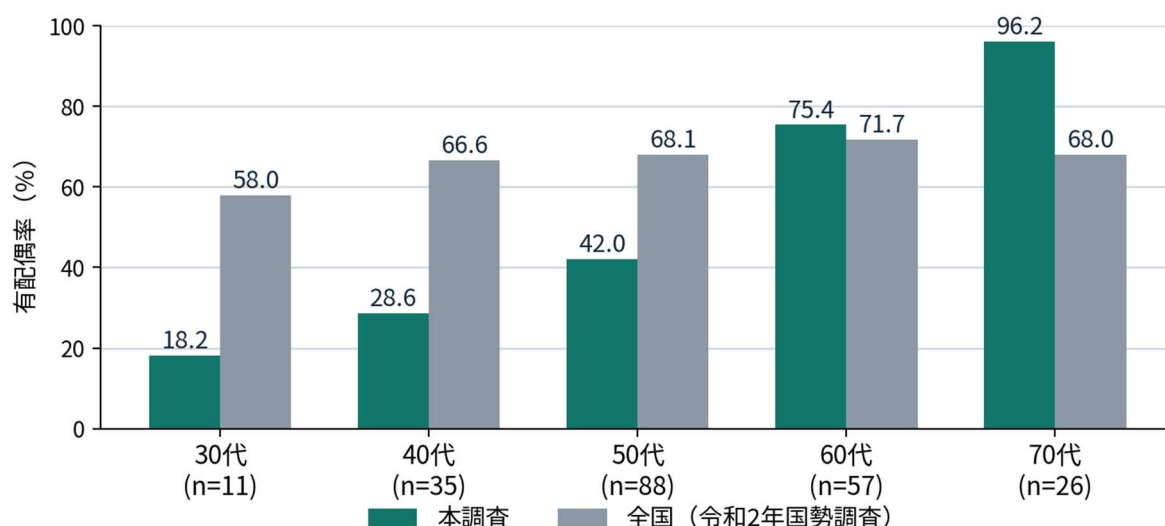
5-3 仕事以外の収入（Q18）

障害年金を受給している人は72.9%であった。老齢年金16.3%、自治体の福祉手当13.6%、生活保護2.3%が続く。障害年金を受給する人の割合が多いことから、週3回の人工透析による時間的拘束や体調面での制約があり、多くが就労に困難を抱え、障害年金が暮らしを支える重要な役割を果たしていることがうかがえる。

5-4 世帯構成（Q20・Q21）

同居人数は2人が38.5%、1人（ひとり暮らし）が25.3%であった。配偶者が「いない（離別・死別を含む）」人は45.2%を占めた。

図 5-3 年齢別の有配偶率と全国との比較



年齢別に見ると、30代は本調査18.2%に対し全国58.0%、40代は28.6%に対し66.6%、50代は42.0%に対し68.1%であり、30～50代はいずれも全国を大きく下回る。一方、60代は75.4%に対し全国71.7%、70代は96.2%に対し全国68.0%であり、60代・70代は逆に全国を上回っている。

※ 全国値は令和2年国勢調査（国籍総数）の年齢階級（5歳階級）の総数と有配偶数を合算し、本調査と同じ10歳階級で算出した。本調査の30代、70代は回答者数が少ない点に留意。

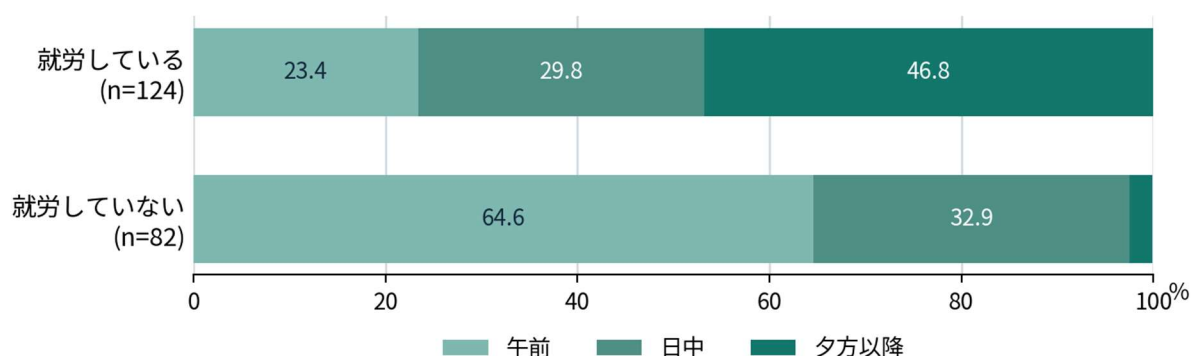
第6章 就労状況と治療・生活の関連

本章では、回答者の属性や治療の状況が、就労や暮らし向きとどのように関連しているかを見る。以下では統計的な検定は行わず、度数と割合を示したうえで、その大小を記述する。本調査は回答者を無作為に抽出したものではなく、標本規模も限られるため、示された差は本調査の回答者における傾向であり、全国の透析患者に一般化できるものではない。

6-1 就労状況と透析の時間帯

透析を受ける時間帯は、就労している人とそうでない人とで分布が大きく異なっていた。

図 6-1 就労状況別 透析を受ける時間帯



分母：施設血液透析利用者のうち時間帯が特定できた206名。「夕方以降」は17時以降開始。

就労している人では夕方以降（17 時以降開始）が 46.8%を占めるのに対し、就労していない人では 2.4%にとどまる。逆に午前は、就労していない人で 64.6%、就労している人で 23.4%であった。

この結果の読み方について

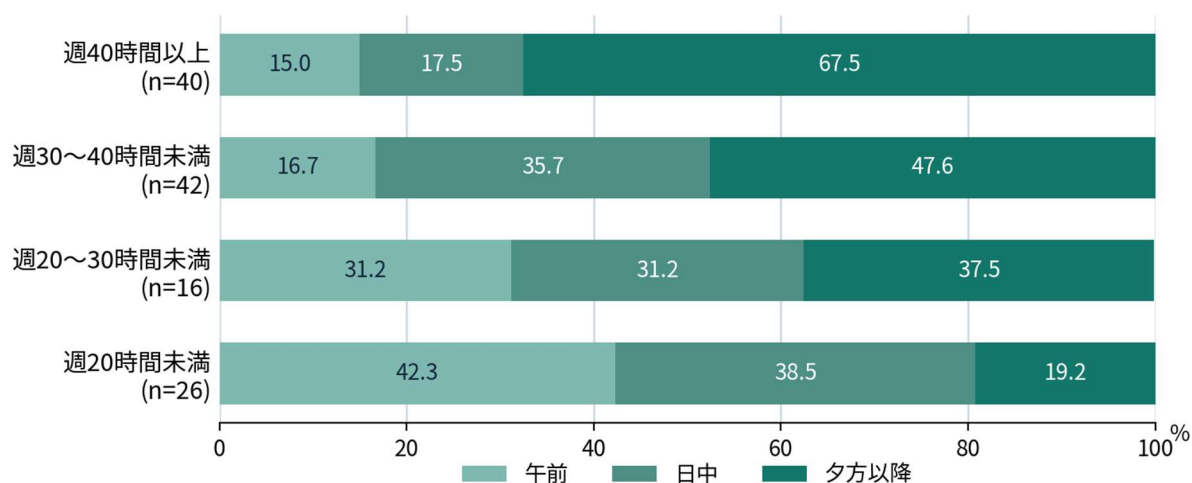
夕方以降の透析を受けているから就労できているのか、就労しているために夕方以降を選んでいるのかは、本調査からは判断できない。就労の状況が透析の時間帯を規定している面は大きいと考えられる。ただし、それだけではない可能性もある。働きたいために夕方以降の

透析を希望しても、通院可能な範囲に対応する施設がなければ、その時間帯を選ぶことはできない。夕方以降の透析には人員配置や勤務体制の負担がともなうため、実施をとりやめる施設もあることが国の調査で報告されている（第8章 8-1 参照）。就労の状況が時間帯を規定しているのか、選択できる時間帯が就労の可否を左右しているのかは、双方向の関係にあると考えられる。ここでは、就労している人の多くが夕方以降の時間帯を利用しているという事実を示すにとどめる。

6-2 就労している人における働き方と透析の時間帯

就労している人のうち、施設血液透析を受けていて透析の時間帯を確認できた 124 名について、働き方によって時間帯がどのように異なるかを見る。

図 6-2 勤務時間別 透析を受ける時間帯（就労者）



就労者のうち勤務時間と透析時間帯が把握できた124名。

勤務時間が長い人ほど、夕方以降の時間帯を利用する割合が高い。週 40 時間以上では 67.5%が夕方以降であるのに対し、週 20 時間未満では 19.2%であった。一方、週 20 時間未満では午前が 42.3%を占める。

表 6-1 雇用形態別 透析を受ける時間帯（就労者）

雇用形態	n	午前	日中	夕方以降
正社員・常時雇用	45	13.3%	24.4%	62.2%
派遣・契約・嘱託	21	9.5%	28.6%	61.9%
臨時雇用・パート等	29	27.6%	37.9%	34.5%
経営者・役員	10	20.0%	40.0%	40.0%

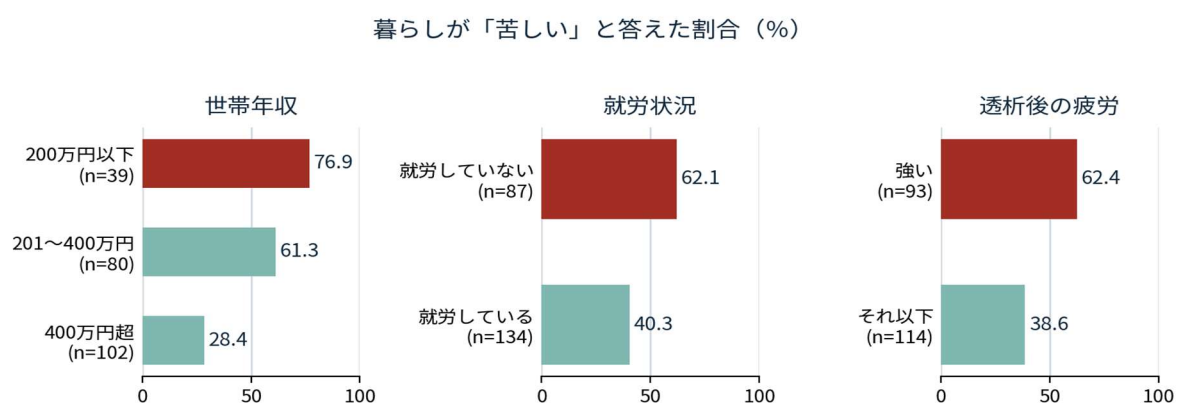
※ 就労者のうち、回答が5名以上の雇用形態を示した。本調査の経営者・役員は回答者数が少ない点に留意。

常時雇用や派遣・契約などフルタイムに近い働き方の人では、夕方以降の割合が6割を超える。一方、臨時雇用・パート等では午前・日中が6割以上を占めた。勤務時間の長さや働き方の性質に応じて、利用する時間帯が異なっていることがうかがえる。

6-3 暮らし向きと関連する要因

暮らし向きを「苦しい」（非常に苦しい＋やや苦しい）と答えた人の割合を、いくつかの区分ごとに比較した。

図 6-3 区分別 暮らしが「苦しい」と答えた人の割合



世帯年収では、200 万円以下の 76.9%、201～400 万円の 61.3%に対し、400 万円超では 28.4%であり、所得が低い区分ほど「苦しい」と答える割合が高い。

就労状況では、就労していない人の 62.1%に対し、就労している人は 40.3%であった。

透析後の疲労では、疲労が強い人（「よくある」「いつもある」）の 62.4%に対し、それ以下の人は 38.6%であり、疲労が強い区分で「苦しい」と答える割合が高い。

表 6-2 世帯構成別 世帯年収 400 万円以下の割合

区分	n	400 万円以下の割合
配偶者あり	121	41.3%
配偶者なし	100	69.0%
同居あり	165	46.7%
単身	56	75.0%

※ 配偶者の有無と世帯人数は、それぞれ別の設問（Q21・Q20）による区分である。

配偶者がいない人、単身の人では、世帯年収 400 万円以下の割合が高い。世帯としての収入の担い手が限られることが背景にあると考えられる。

6-4 透析を受けていることに関する経験・気持ち

Q19 では、透析を受けていることに関する経験や気持ちを尋ねた。回答内容は「やりたいことが十分にできない」といった生活上の制約に関するものから、「採用や仕事の場面で不利だと感じる」という就労機会に関するもの、「後ろめたさや申し訳なさを感じる」という心情に関するものまで幅があり、性質の異なる項目が含まれている。ここでは項目ごとに結果を示す。

表 6-3 Q19 の各項目と、区分別の該当割合

項目	全体	区分による比較
やりたいことが十分にできない	71.9%	—
採用や仕事の場面で不利だと感じる	44.3%	就労している人 51.5%／していない人 33.3%
後ろめたさや申し訳なさを感じる	42.1%	原因疾患が糖尿病性腎症の人 50.0%／それ以外 40.3%

項目	全体	区分による比較
周囲に知られたくない	19.0%	職場に概ね伝えている人 12.9%／一部・伝えていない人 48.5%

「採用や仕事の場面で不利だと感じる」は、就労している人のほうが割合が高い。現に働いている人のほうが、採用や配置の場面に接する機会が多いためと考えられる。

「後ろめたさや申し訳なさを感じる」は、原因疾患が糖尿病性腎症の人で 50.0%、それ以外の人で 40.3%であり、10 ポイント程度の差が見られた。ただし糖尿病性腎症の回答者は 40 名と限られるため、この差をどう評価するかは慎重を要する。

「周囲に知られたくない」は、職場での開示状況と関連が見られた。ただし、知られたくないから伝えていないのか、伝えていない状況が続くなかで知られたくないという気持ちが強まったのかは、本調査からは判断できない。

第7章 自由記述に見る当事者のこえ

設問の自由記述欄には、選択肢では捉えきれない状況が記されていた。以下、原文のまま紹介する。

収入の断絶

「透析導入後、仕事が続けられず今春退職した。年金受給は来年なので、現在収入は無い。預貯金を切り崩している」

制度のはざま

「障害者雇用でないことを理由に合理的配慮を受けられない」

進路の断念

「透析だけでなく、腎臓疾患がある時点で、就職時なりたい職業に就職出来なかった」

見えない疲労

「体調が悪くてしんどい時、何もしてないのになんでそんなに疲れてるの？みたいなことを言われることがある」

偏見・誤解

「実際は遺伝性の難病で人工透析を受けているけど、自分の不摂生な生活で慢性腎不全になったと思われること」

働けるのに、機会がない

「透析のために、現在の職場内で希望の職種につけない。表立って言われたことはないが、お客様とのやり取りや責任がある立場には就かせてもらえない。理由としては、体調面で急な休みや緊急の場面での対応ができないのではないか？ということだが、正直健康者よりも出社率や勤務状況も良いと思う。」

これらの記述は、数値には表れない状況を伝えている。特に最後の記述は、就労能力があるにもかかわらず機会が制限されるという、本調査の結果と符合する経験を述べている。

第8章 考察

8-1 働き方と治療時間帯の関係

就労している人では夕方以降に透析を受けている割合が高く、勤務時間が長い人ほどその傾向が強い。

同時に、就労している人のなかにも午前（23.4%）や日中（29.8%）に透析を受けている人が一定数存在する。特に勤務時間が週 20 時間未満の人では午前が 42.3%を占め、臨時雇用・パート等では午前・日中が 6 割以上であった。治療の時間帯に合わせて勤務時間や働き方を調整している人が相当数いることがうかがえる。

このことは、就労の継続を支える条件が、治療時間帯の選択肢だけではないことを示している。勤務時間や勤務日数を柔軟に調整できること、通院にともなう遅刻や早退が許容されることなど、働き方の柔軟性も、同じく重要な条件である。夕方以降の時間が確保されることと、柔軟な働き方が選べることは、いずれか一方ではなく、双方が必要であると考えられる。

なお、夕方以降の透析を希望しても、通院可能な範囲にその時間帯を実施している施設がなければ、実際には選ぶことができない。この点について、供給側の状況を示す資料がある。

夕方以降の透析をめぐる供給側の状況

厚生労働省の中央社会保険医療協議会が 2007 年度に実施した調査は、前年の診療報酬改定で人工腎臓（透析）の夜間加算・休日加算が引き下げられたことの影響を検証したものである。この調査では、外来透析を実施する 1,120 施設のうち、外来夜間透析を最近廃止した施設が 50 施設あったことが報告されている。

同調査には、施設からの意見として「仕事をしている患者のために夜間透析を実施しているが、これ以上の診療報酬の減額、また夜間透析の医師・看護師・技士の確保と夜間手当の高騰を考えると、今後夜間透析の是非を検討せざるを得ない」といった記述も収録されている。

また、日本透析医会の報告では、2019 年の働き方改革関連法の施行により、夜間透析を行う施設では準夜勤の翌日のシフト設定が難しくなることが指摘されている。

これらは 20 年近く前の調査を含み、現在の状況をそのまま示すものではない。また、日本透析医学会の統計では、患者の高齢化にともなって夜間透析を受ける人が減少していることも報告されており、需要側の変化も影響していると考えられる。

ただし、夕方以降の透析には人員の確保や勤務体制の面で施設側の負担がともなうこと、そのために実施をとりやめる施設が存在することは、就労と治療の両立を考えるうえで見落とせない要素である。就労している人が夕方以降の時間帯を多く利用しているという本調査の結果は、その時間帯が確保されていることを前提としている。本調査の回答者は、必要な時間帯を利用できている人に偏っている可能性がある。

8-2 透析後の疲労について

透析後の疲労は多くの回答者が経験しており、「強い疲労感やだるさ」が「ときどきある」以上と答えた人は 72.9%であった。

暮らし向きとの関係では、疲労が強い人で「苦しい」と答える割合は 64.2%であったのに対し、それ以下の人は 38.6%であった。ただし、疲労が強い人には就労していない人や低所得の人も含まれるため、疲労だけが暮らし向きに影響しているとは言えない。

就労している人のなかで疲労の強さを見ると、勤務時間が週 40 時間以上の人で 50.0%、週 20 時間未満の人で 57.7%が「よくある」「いつもある」と答えており、勤務時間の長短と疲労の強さの間に単純な関係は見られなかった。疲労の感じ方には、治療の条件や体調、仕事の内容、休息の取り方などさまざまな要因が関わっていると考えられる。

8-3 経済的基盤と世帯の状況

世帯年収 400 万円以下が 53.8%、障害年金の受給が 72.9%という結果は、経済的基盤が

限られる層が多数を占めることを示している。

世帯構成別に見ると、配偶者がいない人では 69.0%、単身の人では 75.0%が世帯年収 400 万円以下であった。世帯としての収入の担い手が限られることが、経済的な余裕の乏しさにつながっていると考えられる。

また、有配偶率は年代によって異なる傾向が見られた。30～50 代は全国を下回る一方、60 代・70 代は上回っていた。ただし、この違いが透析によるものか、他の要因によるものかは本調査からは特定できない。就労や収入の不安定さが 30～50 代の家族形成に影響した可能性、60 代・70 代は回答者数が少なく数値が不安定である可能性、高齢になってから（家族形成期を経た後に）透析となった可能性など、複数の解釈が成り立つ。

8-4 示唆される支援の課題

以上の結果から、次のような課題が示唆される。

(1) 治療時間帯の選択肢と、働き方の柔軟性

就労している人の多くが夕方以降の時間帯を利用している一方、午前や日中に治療を受けながら働いている人も一定数いる。治療の時間帯を選べることと、勤務時間や勤務日数を調整できることは、いずれも就労の継続に関わる条件である。なお、夕方以降の透析には施設側の人員配置や勤務体制の負担がともない、実施をとりやめる施設があることが国の調査で報告されている（8-1 参照）。希望しても近隣に対応する施設がなければ選ぶことはできず、その意味で治療時間帯は個人の選択だけで決まるものではない。地域による偏りの有無については、本調査では回答者数が限られるため検討していない。

(2) 透析後の疲労への理解

透析後の疲労を経験している人は多く、暮らし向きとの関連も見られた。ただし、疲労の強さと就労の状況との間に単純な対応関係は見られなかった。疲労の程度や回復に要する時間には個人差があり、また休息の取り方によっても影響が異なると考えられる。

画一的な対応ではなく、個々の状況に応じた配慮が求められる。

(3) 経験や気持ちの多様性への配慮

透析を受けていることに関する経験や気持ちは、生活上の制約、就労機会に関する不利益、心情の問題など、性質の異なる複数の側面を含んでいる。「後ろめたさや申し訳なさ」については、周囲の理解の不足に加えて、期待される役割を果たせていないと感じることなど、さまざまな背景が考えられる。それぞれの側面に応じた対応が必要である。

(4) 重症化予防の重要性

透析に至る人を減らすことは、当事者の生活の質と医療資源の両面において意義がある。

8-5 本報告書の作成に関して

本調査は特定の制度の是非を論じることを目的とするものではない。しかし、透析を受けている人の就労や暮らしの状況を検討する際の基礎資料としては、一定の材料を提供しようとする。

なお、調査結果の引用にあたっては、設問と回答から読み取ることのできる範囲を超えた解釈を避けるべきである。本報告書もこの原則に従い、因果関係の断定や、調査の範囲を超えた一般化を避けるよう努めた。

第9章 おわりに

本調査にご協力くださった221名の皆さまに、心より御礼申し上げます。設問数の多い調査にもかかわらず、丁寧にお答えいただき、自由記述欄には多くの具体的な経験を記していただきました。

また、透析患者の生活実態については、公益社団法人日本透析医会、一般社団法人全国腎臓病協議会（全腎協）による長年の調査の蓄積があります。先行する取り組みに深く敬意を表します。

一般社団法人ピーペックは、慢性疾患をもつ人が自分らしく生活できる社会を目指し、当事者への情報提供、エンパワーメントや自己管理支援、そして重症化予防の取り組みを進めています。本調査を通じて見えてきた課題に対しても、当事者の視点から取り組んでまいります。

本報告書が、透析を受けている人の就労と暮らしについて考える一助となれば幸いです。

一般社団法人ピーペック
代表理事 宿野部武志

資料編

資料 1 調査項目一覧

No	設問
Q1	性別
Q2	年齢
Q3	お住まいの都道府県
Q4	現在の健康状態
Q5	腎不全（透析）の原因となった病気
Q6	受けている透析の種類
Q7	普段の施設血液透析を受ける時間帯
Q8	透析後、普段の体調に戻るまでの時間
Q9	透析後の体調（A 強い疲労感／B 帰宅後動けない／C 翌日まで残る／D 仕事・家事がはかどらない／E 予定を控える）
Q10	収入をとまなう仕事の有無
Q11	働き方（雇用形態）
Q12	一週間の勤務日数
Q13	一週間の勤務時間
Q14	透析を職場にどの程度伝えているか
Q15	就労・働き方に関する経験（複数回答）
Q16	ここ 5 年間の暮らし向きの変化
Q17	現在の世帯の暮らし向き
Q18	仕事以外の収入（複数回答）
Q19	透析に関する経験・気持ち（複数回答）
Q20	同居している人数

No	設問
Q21	配偶者の有無
Q22	同居家族全体の年間収入総額

資料 2 全設問の集計結果

全 22 問の回答結果を設問順に示す。分母は設問により異なるため、各表に明記した。また、回答者が特定されることを避けるため、回答数が少ない選択肢は「その他」としてまとめている。

Q1. 性別 (n=221)

選択肢	人数	割合
男性	144	65.2%
女性	74	33.5%
その他・答えたくない	3	1.4%

Q2. 年齢 (n=221)

選択肢	人数	割合
30～39 歳	11	5.0%
40～49 歳	35	15.8%
50～59 歳	88	39.8%
60～69 歳	57	25.8%
70～79 歳	26	11.8%
80 歳以上	4	1.8%

Q3. お住まいの都道府県（n=221／41 都道府県）

選択肢	人数	割合
東京都	36	16.3%
神奈川県	20	9.0%
埼玉県	17	7.7%
大阪府	14	6.3%
愛知県	14	6.3%
北海道	13	5.9%
千葉県	12	5.4%
静岡県	11	5.0%
福島県	8	3.6%
兵庫県	7	3.2%
京都府	7	3.2%
栃木県	4	1.8%
熊本県	4	1.8%
広島県	3	1.4%
鹿児島県	3	1.4%
奈良県	3	1.4%
岡山県	3	1.4%
茨城県	3	1.4%
滋賀県	3	1.4%
愛媛県	3	1.4%
宮城県	3	1.4%
その他の県（各 2 名以下）	30	13.6%

※ 個人が特定されることを避けるため、回答が 2 名以下の県は「その他の県」としてまとめた。

Q4. あなたの現在の健康状態はいかがですか。（n=221）

選択肢	人数	割合
よい	26	11.8%
まあよい	60	27.1%
ふつう	81	36.7%
あまりよくない	48	21.7%
よくない	6	2.7%

Q5. 腎不全（透析）の原因となった病気を教えてください。（n=221）

選択肢	人数	割合
慢性糸球体腎炎	64	29.0%
糖尿病性腎症	40	18.1%
不明	27	12.2%
のう胞腎	19	8.6%
腎硬化症	15	6.8%
その他（自由記述を含む）	56	25.3%

※「その他」には慢性腎盂腎炎、IgA 腎症、SLE、アルポート症候群などが含まれる。

Q6. あなたが受けている透析の種類はどれですか。（n=221）

選択肢	人数	割合
施設血液透析	203	91.9%
在宅血液透析	7	3.2%
腹膜透析	7	3.2%
施設血液透析と腹膜透析の両方	4	1.8%

Q7. 普段の施設血液透析はいつ受けていますか。（n=206（施設血液透析利用者のうち時間帯が特定できた方））

選択肢	人数	割合
午前	82	39.8%
日中	64	31.1%
夕方以降	60	29.1%

※ 選択肢以外の自由記述による回答は、記述内容から午前・日中・夕方以降に振り分けた。「夕方以降」は 17 時以降開始を指し、16 時台の開始は「日中」に含めた。複数の時間帯にまたがり単一の区分に判定できない記述の 1 名は分析対象から除いている。

Q8. 透析が終わってから普段の体調に戻る（回復する）まで、どのくらい時間がかかりますか。（n=207（施設血液透析利用者））

選択肢	人数	割合
2 時間未満	76	36.7%
2～6 時間程度	59	28.5%
7～12 時間程度	48	23.2%
12 時間以上	24	11.6%

Q9. 透析の後の体調について、次のようなことがどれくらいありますか。 [A. 透析の後、強い疲労感やだるさを感じる]（n=207（施設血液透析利用者））

選択肢	人数	割合
いつもある	45	21.7%
よくある	48	23.2%
ときどきある	58	28.0%
ほとんどない	44	21.3%
まったくない	12	5.8%

Q9. 透析の後の体調について、次のようなことがどれくらいありますか。【B. 透析のあった日は、帰宅後に休まないと動けない】（n=207（施設血液透析利用者））

選択肢	人数	割合
いつもある	45	21.7%
よくある	42	20.3%
ときどきある	43	20.8%
ほとんどない	51	24.6%
まったくない	26	12.6%

Q9. 透析の後の体調について、次のようなことがどれくらいありますか。【C. 疲労の影響が、透析の翌日まで残る】（n=207（施設血液透析利用者））

選択肢	人数	割合
いつもある	20	9.7%
よくある	28	13.5%
ときどきある	44	21.3%
ほとんどない	80	38.6%
まったくない	35	16.9%

Q9. 透析の後の体調について、次のようなことがどれくらいありますか。【D. 疲労のために、仕事や家事がはかどらない・集中できない】（n=207（施設血液透析利用者））

選択肢	人数	割合
いつもある	27	13.0%
よくある	38	18.4%
ときどきある	57	27.5%
ほとんどない	60	29.0%
まったくない	25	12.1%

Q9. 透析の後の体調について、次のようなことがどれくらいありますか。〔E. 透析後は疲労感が強いので、予定を入れないようにしている〕（n=207（施設血液透析利用者））

選択肢	人数	割合
いつもある	43	20.8%
よくある	50	24.2%
ときどきある	38	18.4%
ほとんどない	49	23.7%
まったくない	27	13.0%

Q10. 現在、収入をとまなう仕事をしていますか。（n=221）

選択肢	人数	割合
している	134	60.6%
していない	87	39.4%

Q11. あなたの働き方に最も近いものはどれですか。（回答者 134 名（就労者）／割合は n=221 に対するもの）

選択肢	人数	割合
正社員・常時雇用（公務員を含む）	50	22.6%
臨時雇用・パート・アルバイト	29	13.1%
派遣社員・契約社員・嘱託社員	23	10.4%
経営者・役員	11	5.0%
自営業主（雇い人なし）	11	5.0%
その他（自営業主（雇い人あり）2 名、内職 2 名ほか）	10	4.5%

Q12. 普段の一週間の勤務日数について、一番近いものを選んでください。（回答者 134 名（就労者）／割合は n=221 に対するもの）

選択肢	人数	割合
週 6 日以上	16	7.2%
週 5 日	78	35.3%
週 4 日	13	5.9%
週 3 日	17	7.7%
週 2 日	1	0.5%
週 1 日	1	0.5%
決まっていない	8	3.6%

Q13. 普段の一週間の勤務時間について、一番近いものを選んでください。（回答者 134 名（就労者）／割合は n=221 に対するもの）

選択肢	人数	割合
週 40 時間以上	44	19.9%
週 30～40 時間未満	45	20.4%
週 20～30 時間未満	18	8.1%
週 20 時間未満	27	12.2%

Q14. 透析を受けていることを、職場でどの程度伝えていきますか。（回答者 134 名（就労者）／割合は n=221 に対するもの）

選択肢	人数	割合
上司や周囲に概ね伝えている	101	45.7%
一部の人にだけ伝えている	31	14.0%
その他（少数回答をまとめて表示）	2	0.9%

Q15. 透析を続ける中で、あなたの仕事や働き方について、次のような経験はありましたか。当てはまるものを全て選んでください。（n=219（回答が矛盾する2名を除外））

選択肢	人数	割合
透析のため勤務日数・勤務時間を減らした	100	45.7%
透析のため退職した、働けなくなった	55	25.1%
透析のため昇進や責任ある仕事を見送った・見送られた	50	22.8%
透析の時間に合わせて転職・配置転換をした	47	21.5%
透析のため就職を諦めた	33	15.1%
透析のため休職した	24	11.0%
透析による影響は特にない	42	19.2%

※「透析による影響は特にない」と他の選択肢を同時に選んだ2名は、回答内容が矛盾するため分析対象から除外した。

Q16. ここ5年間で、あなたの世帯の暮らし向き（経済状況）はどう変化しましたか。
(n=221)

選択肢	人数	割合
非常に苦しくなった	38	17.2%
やや苦しくなった	79	35.7%
変わらない	85	38.5%
やや楽になった	14	6.3%
かなり楽になった	5	2.3%

Q17. 現在、あなたの世帯の暮らし向き（経済状況）について、一番近いものを選んでください。 (n=221)

選択肢	人数	割合
非常に苦しい	36	16.3%
やや苦しい	72	32.6%

選択肢	人数	割合
ふつう	84	38.0%
やや楽	17	7.7%
かなり楽	12	5.4%

Q18. 現在、仕事以外の収入はありますか。あてはまるものを全て選んでください。（n=221
（複数回答））

選択肢	人数	割合
障害年金	161	72.9%
老齢年金	36	16.3%
自治体による障害者等への福祉手当	30	13.6%
生活保護	5	2.3%
その他（少数回答をまとめて表示）	21	9.5%

Q19. 透析を受けていることについて、次のような経験や気持ちはありますか。あてはまるものを全て選んでください。（n=221（複数回答））

選択肢	人数	割合
透析を受けていることで自分のやりたいことが十分にできない	159	71.9%
透析を受けていることで採用や仕事の場面で不利だと感じる	98	44.3%
透析を受けていることで後ろめたさや申し訳なさを感じることもある	93	42.1%
透析を受けていることを周囲に知られたくない	42	19.0%
その他（少数回答をまとめて表示）	13	5.9%

Q20. あなたを含めて、何人で暮らしていますか。（n=221）

選択肢	人数	割合
1 人（ひとり暮らし）	56	25.3%
2 人	85	38.5%
3 人	49	22.2%
4 人	27	12.2%
5 人以上	4	1.8%

Q21. あなたには配偶者（妻あるいは夫）がいますか。（n=221）

選択肢	人数	割合
いる（内縁関係も含む）	121	54.8%
いない（離別、死別も含む）	100	45.2%

Q22. あなたを含めた同居家族全体の、去年一年間の収入総額はいくらですか（給与、年金、財産収入、贈与等全て含む額）。（n=221）

選択肢	人数	割合
100 万円以下	10	4.5%
200 万円以下	29	13.1%
300 万円以下	46	20.8%
400 万円以下	34	15.4%
500 万円以下	27	12.2%
800 万円以下	38	17.2%
1,000 万円以下	15	6.8%
1,000 万円を超える	22	10.0%

※「～万円以下」は直前の階級を含まない区間（例：「200 万円以下」は 101 万円～200 万円の層）を示す。

資料3 引用文献・参考文献

本報告書において、本調査以外に参照・引用した資料は以下のとおりである。

引用文献（本文中で数値を引用したもの）

- 1) 日本透析医学会統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況（2024年12月31日現在）」日本透析医学会雑誌, 58巻12号, 2025年.

→ 第2章2-2（全国の透析患者の平均年齢約70歳）、第8章8-1（夜間透析を受ける人が高齢化にともない減少していることへの言及）で引用。

- 2) 総務省統計局「労働力調査 長期時系列データ 表番号3-3 年齢階級（5歳階級）別就業者数及び就業率」2025年平均.

→ 第4章および図4-1（年齢階級別就業率）で引用。本調査の10歳階級に対応する全国の5歳階級2区分を、それぞれ示している。

- 3) 総務省統計局「令和2年国勢調査 人口等基本集計（国籍総数）」2020年.

→ 第5章および図5-3（年齢階級別有配偶率）で引用。5歳階級の実数から算出した値を用いている。

- 4) 中央社会保険医療協議会「診療報酬改定結果検証に係る特別調査（平成19年度調査）透析医療に係る改定の影響調査 報告書」厚生労働省, 2008年.

→ 第8章8-1（外来夜間透析を実施する施設の状況、施設からの意見）で引用。

- 5) 日本透析医会「透析医療現場における勤務環境改善について」日本透析医会雑誌, 34巻2号, 2019年.

→ 第8章8-1（働き方改革関連法が夜間透析のシフト設定に及ぼす影響）で引用。

参考文献（調査設計・位置づけの検討にあたり参照したもの）

- 6) 公益社団法人日本透析医会 血液透析患者実態調査検討ワーキンググループ「2021年度血液透析患者実態調査報告書」

※日本透析医会と全国腎臓病協議会が共同で行った調査の報告書

統計資料の利用に関する記載

本報告書における日本透析医学会統計調査の利用について統計調査結果は日本透析医学会により提供されたものであるが、結果の利用、解析、結果および解釈は発表者・著者が独自に行っているものであり、同会の考えを反映するものではない。

※ 日本透析医学会「統計資料利用規程」に基づき、上記を明記する。なお同規程では、統計資料内の数値はその後の再集計等により順次更新される場合があるとされている。

本調査について

本報告書の基礎となった調査は、一般社団法人ピーベックが「じんラボ」を通じて 2026 年 7 月 1 日から 27 日にかけて実施した『透析を受けている人の就労と暮らし向きに関するアンケート』（有効回答 221 名）である。調査項目および集計結果は資料 1・資料 2 に掲載している。

お問い合わせ

本報告書の内容、データの詳細についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

一般社団法人ピーベック info@ppecc.jp

※お名前、お電話番号、透析の調査報告書の件、と明記の上お問い合わせください

透析を受けている人の

就労と暮らし向きに関する調査報告書

221 名のこえから見えた、働くこと・暮らすことの現在地

2026 年 9 月 発行

発行元 一般社団法人ピーペック

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-33-1 サンライズプラザ 501

Web : <https://ppecc.jp/>

じんラボ : <https://www.jinlab.jp/>

お問い合わせ : info@ppecc.jp

本報告書の引用について

本報告書の内容やデータを引用・転載される際は、必ず以下の出典を明記してください。

（記載例）一般社団法人ピーペック「透析を受けている人の就労と暮らし向きに関する調査報告書」（2026 年）